



氷河情報センター分科会報告

雪氷研究大会 (2010・仙台) において、氷河情報センターのオーガナイズドセッションおよび総会を開催した。オーガナイズドセッションではパタゴニア氷河に関して 2 件の講演と質疑応答が行われた。引き続き行われた総会では、活動・会計の報告、活動方針・予算案の承認、役員改選、センター活動支援基金の事業実施に関する議論等を行った。

日 時：9 月 28 日 (火) 16:00-18:10
(総会 17:30-18:10)

場 所：東京エレクトロンホール宮城
(401 会議室)

オーガナイズドセッション：

日本の研究者が精力的に行ってきた氷河調査の中で南米パタゴニアの氷河を取り上げ、現地調査の内容やその成果について紹介して頂いた。

講演の内容は、最初に成瀬廉二氏 (NPO 法人氷河・雪氷圏環境研究舎) に「パタゴニア氷河研究の先駆けから展開期」と題して、1960 年代後半から 2000 年代に至る、わが国におけるパタゴニア氷河調査の変遷について説明して頂いた。特に多目的かつ組織的に展開された 1980 年代以降の調査に関して、写真を交えながら調査の様子や観測で得られた成果を詳細に説明して頂いた。

続いて、杉山慎氏 (北海道大学低温科学研究所) に「パタゴニア・ペリートモレノ氷河における熱水掘削」と題して、アルゼンチン・南パタゴニア氷原ペリートモレノ氷河における氷河調査を紹介して頂いた。カービング氷河における底面水圧の変化が流動に与える影響を解明するために、2010 年 2-3 月に氷河流動調査と、パタゴニアの氷河では世界初の試みとなった熱水掘削が実施された。掘削を実施するに至るまでの経緯や観測で得られた成果についてお話して頂いた。

限られた時間内でのセッションではあったが、

活発に質疑応答がなされた。従来氷河観測が必ずしも十分ではなかったパタゴニアにおける調査・研究結果について、まとまった話を聞く機会を提供できたと考えている。今後も研究の発展が期待されるセッションであった。

総 会：

1) 2009-10 年度活動報告

1. 2010 年度総会の実施
2. 氷河情報センターニュース No. 32 の編集・発行 (『雪氷』72 巻 3 号, 198-202)
3. 雪氷研究大会 (2010・仙台) でのオーガナイズドセッションの企画・開催
4. 氷河情報センター HP の一部改訂

2) 2009 年度会計報告

3) 2010-11 年度活動計画の承認

1. 2011 年度総会の実施
2. 氷河情報センターニュースの編集・発行
3. オーガナイズドセッションの企画・開催
4. 氷河情報センター HP の改訂および充実

4) 2010 年度予算案の承認

5) 役員改選 (○：今回新任, 他は継続)

センター長：白岩孝行 (北大低温研)
財務幹事：○紺屋恵子 (海洋研究開発機構)
庶務幹事：中澤文男 (融合センター/極地研)
広報幹事：○櫻井俊光 (北大低温研)・岡本祥子 (名大)・津滝俊 (北大)

6) センター活動支援基金の事業実施について

矢吹裕伯氏 (海洋研究開発機構) が構築されているモンゴル氷河インベントリを、基金を活用して出版する案が提案・承認された。学会の財務関連の質疑応答および基金を利用した活発な活動が行われるべきであるなど議論が行われた。今後も継続して事業を受け付け、検討していくことになった。事業の提案・実施の方法は以下のように進められることになった。

1. 総会前にメーリングリストを用いて事業内

- 容と予算を提案 (8 月頃まで)
2. 総会にて事業提案を行い, 事業実施の可否を決定 (9-10 月)
 3. 翌年度の予算計画に計上 (2 月)
 4. 基金の移管と事業の実施 (4 月から)
- 7) 『雪氷辞典』の改訂について
『雪氷辞典』の改訂にともない, 各分科会の編集

委員として, 氷河情報センターからは中澤文男庶務幹事が推薦された。
(津滝 俊: 北海道大学大学院環境科学院/低温科学研究所, 中澤文男: 新領域融合研究センター/国立極地研究所)

(2010 年 10 月 7 日受付)

2010 年度 凍土分科会報告

雪氷研究大会 (2010・仙台) において凍土分科会セッションおよび総会をおこなった。参加者は 18 名であった。

日 時: 平成 22 年 9 月 27 日 (月) 15:45-17:45
場 所: 東京エレクトロンホール宮城 401 会議室
講演会 「モンゴル・永久凍土地帯における環境の現状」 (15:45-17:10)

モンゴル北部地域は, 東シベリアの永久凍土地帯やタイガ地帯の南端に位置し, 気候変動の影響が表れやすい場所である。武田分科会長 (帯広畜産大) より講演会の趣旨説明に続き, モンゴルを対象に現在研究を行っている 3 つのプロジェクトについて以下の講演があった。北海道大学地球環境科学研究所の石川守氏から「モンゴル永久凍土の分布と変動の実態」と題し, 約 40 地点における近年の地温測定結果と既存のデータとの比較が紹介された。海洋研究開発機構の飯島慈裕氏からは「モンゴル森林-草原斜面における凍土環境と水循環」と題し, モンゴル北部の南北斜面に特徴的に分布する草原と森林における蒸発散や流出特性と凍土環境との対応関係について報告された。武田分科会長からは「モンゴル北部永久凍土地帯における森林環境に与える火災の影響」と題し, モンゴル北部フスグル地域のカラマツ森下の永久凍土に及ぼす火災の影響, 再生や更新を支配する因子, また火災の利益・不利益について, 現地調査結果が紹介された。

議 論 「北海道の凍結深分布測定について」
(17:10-17:30)

昨年の分科会セッションで宮城大学の前田鉦一郎氏より提案のあった北海道内凍結深分布の調査について, 具体的な実現の可能性を探る議論を行った。測定した分布図を何に利用するのか, 分布図作りの具体的目的, 測定に協力する人の動機付けなど, プロジェクトとして考えるには目的をより明確にする必要があること, それをもとに, 測定項目と地点を, 既に測定を行っている地点データも考慮にいれ選定すべきであることなど意見が寄せられた。

分科会総会 (17:30-17:45)

昨年度の活動報告として, 分科会メーリングリストの整備, 第 10 回「永久凍土のモニタリングと変動に関する研究集会」の後援, 大学間交流セミナーの後援, 北十勝 GEO ツアーの後援などが紹介され, H21 年度の監査報告が示された。本年度の活動計画については, これらの集会, セミナー, ツアーの後援の継続, 北海道凍結深分布プロジェクト案の継続討議が上げられた。「雪氷辞典」の改訂にあたる編集委員には渡辺幹事を選出した。また, 関連国際会議 (EUCOP, ICOP, ISAR, AGU など) の紹介, 雪氷本誌への投稿の推奨, 特集号の予定などがそれぞれ報告された。

(凍土分科会幹事 渡辺晋生)

(2010 年 10 月 7 日受付)